

主な登場人物

「夜明けを告げる人びと」の中には、多数の登場人物が出てきますが、それぞれの人物の名前は長く、また似通ったものも多いので、読みやすくするために短縮したり、呼称だけを用いたりしました。紙面の都合で、ここに紹介するのは主な登場人物だけです。

アガシ (1783-1849) ハジ・ミルザ・アガシのこと。モハメッド国王の総理大臣で、バブを牢獄に監禁した。国外に追放され、貧窮のうちに死亡。

アガ・ジャン (1837-1901) ミルザ・アガ・ジャンのこと。バハオラに40年仕えた秘書。

アニス (-1850) ミルザ・モハメッド・アリのこと。バブと共に殉教した弟子。

アブドル・アジス (1830-76) バハオラを迫害したトルコ皇帝。統治期間 1861-1876。

アブドル・バハ (1844-1921) バハオラの長子。バハオラが地下牢に監禁されとき9才。その後父上と追放と投獄の生活を共にする。

アーマド・アズガンディ ミルザ・アーマド・アズガンディのこと。コラサン州の最初のバビ。最高の学識者。

ヴァヒド (-1850) セイエド・ヤヒヤ・ザラビのこと。国王がバブを調査するために送った最高の学者。バビとなりナイリズで殉教。

ガエム イスラム教に述べられている人物で、バブのことを指す。「ガエムが立ち上る時、それは復活の日である」とある。

カゼム (-1843/4) セイエド・カゼム・ラシュティのこと。師であったシェイク・アーマド・アソイにつづいてバブの出現を予知し、そのために人びとを準備した。バブの宣言の半年前に世を去ったが、かれの弟子モラ・ホセインはバブを最初に認める人となった。

ゴッドス (1819/20-49) ハジ・モハメッド・アリ・バールフシィのこと。「生ける者の文字」と呼ばれる18人の中で最後に弟子になったが、地位はバブに次ぐ。1849年拷問を受け殉教。

ザイナブ (-1850) ザンジャンの砦で敵を震撼させた勇敢な女性。数ヵ月後に殉教。

サディク モラ・サディク・コラサニのこと。著名なバビで、ゴッドスと共に拷問を受ける。

セイエド・アリ (-1850) ハジ・ミルザ・セイエド・アリのこと。バブの伯父で、テヘランの七人の殉教者の一人。

ゾヌジ シェイキ・ハサン・ゾヌジのこと。バブの書簡を複製した弟子。

タギ・カーン (-1852) ミルザ・タギ・カーンのこと。ナセルディン国王の総理大臣で、バブの処刑を命じた。1852年、カシャン近くの公衆風呂で国王の命令により暗殺される。

タヘレ (1817-52) ファテメ・ウマ・サラメのこと。「タヘレ」とは「清純な者」という意味で、バハオラが与えた称号。「生ける者の文字」と呼ばれる18人の弟子の中で唯一の女性。1852年スカーフで絞殺されて殉教。

ナセルディン・シャー (1831-96) バブを処刑し、バハオラを投獄し、追放したイランの国王。統治期間1848-1896。バハオラはかれを「圧制の皇子」と呼んだ。1896年記念祭の前夜に暗殺される。

バディ (1852-69) アガ・ボゾルグ・ニシャブのこと。反抗的な若者であったが、バハオラに会い完全に変わった。バハオラの使いとして書簡を国王に渡したが捕らえられ、拷問を受けて殉教。

バハオラ (1817-92) 「バハオラ」は「神の栄光」という意味のアラビア語で、ミルザ・ホセイン・アリの称号。1817年に誕生。1863年自分こそバブが予告していた神の顕示者であることを宣言。40年間追放と投獄生活を強いられたが、その間百冊以上にのぼる本と数千にわたる書簡を書いた。1892年追放先のイスラエルで没したが、かれが設立したバハイ共同体は世界の隅々にひろがり、発展しつづけている。

バブ (1819-50) 「バブ」は「門」という意味のアラビア語で、セイエド・アリ・モハメッドの称号。シェイキ・アーマド、セイエド・カゼムおよびモラ・ホセインが探していた神の使者で、1819年に誕生。1844年自らの使命を宣言し、新しい時代の到来と、自分の後により偉大な神の顕示者（バハオラ）が出現することをペルシャ中に伝えた。1850年殉教。遺体はイスラエルのカルメル山腹に建てられた聖廟にまつられている。

ホセイン・ヤズディ (-1852) セイエド・ホセイン・ヤズディのこと。「生ける者の文字」の一人で、バブに秘書として仕え、マーカーとチェリグにバブと共に監禁された。

ホッジヤト (-1850) モラ・モハメッド・アリ・ザンジャンのこと。博学で有名なイスラム教の聖職者であったが、バブの書簡を一頁読んだ直後バブの弟子となった。国王から愛顧を受けたが、故郷ザンジャンの砦で殉教。

マヌチェール・カーン(-1847) イスファハンの知事でバブに感動してバビとなり、全財産をバブに残したいと申し出る。

ミルザ・アッバス (-1839) ミルザ・ボソルグのこと。バハオラの父上。

ミルザ・ムサ アガ・カリムのこと。バハオラの実弟で、生涯バハオラに忠実に仕えた。

モラ・ホセイン (1813-49) モラ・ホセイン・ボシュルエイのこと。カゼムの弟子で、バブを最初に信じた人。「生ける者の文字」の一人で、1849年シェイキ・タバルシの戦いで殉教。

ヤーヤ (1831/2-1912) ミルザ・ヤーヤのこと。バハオラの異母弟で、バブから共同体の責任者として任命されていたが、その責任を果たさず、ほかの陰謀者たちと手を組んでバハオラに反対し、大変な苦しみをもたらした。1,912年追放先のキプロス島で寂しく亡くなった。